

関西学院千里国際中等部
2022年度 入学試験問題

国語

- ・ 問題用紙はこの表紙をふくめて5枚、解答用紙は1枚あります。
- ・ この表紙と解答用紙に受験番号を書きなさい。
- ・ 字数制限のある場合は、「、」「。」もふくみます。

受験番号 ()

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

天動説は長い間信じられてきたわけですが、その後16世紀に入ってからいよいよ登場したのが「地動説」です。地動説は「地球が動いている」という説です。①この説は、ニコラウス・コペルニクスによって最初に主張されたといわれています。

それまで人類は、地球が宇宙の中心にあって、太陽やその他の星々が地球の周りを回っていると思っていたわけですが、実はそうではなくて、太陽が真ん中にある、その周りを地球が回っているのではないかと考えたのが地動説です。

地動説の登場は、世界の見方を180度変える。カノウセイのある非常に大きな出来事だったといえます(ちなみに、価値観や世界観の大変革が起こることを、今でもこの出来事に「コペルニクスの転回」とよんだりします)。

地動説が登場したbハイケイには、地球が太陽の周りを回っていると考えたほうが惑星の複雑な動きを説明しやすい、という明確な理由がありました。しかし、それでもやはり人類は世界の中心にないといけない、というキリスト教的世界観は根強く、地動説をとなえることは神に逆らうことであり、許されない行為であるとされたため、地動説はその後簡単に受け入れられることはありませんでした。

ではどうすれば、【1】【2】を打ち負かすことができるのでしょうか。まずは【3】が正しい証拠を見つけてこないといけません。そして【4】が正しいことを説明しないといけません。

この【5】が正しいという証拠を最初に見つけてきたのが、ヨハネス・ケプラーです。ケプラーは、彼の師匠であるティコ・ブラーエが集めた大量の観測データをもちいて、「ケプラーの法則」を見つけ出すことに成功します。

ティコは、毎晩夜空を見上げては各惑星の場所を確認し、何年もかけてそれらの位置の変化を記録していました。つまり、地球から見て惑星がどういうふう動いているか、というデータを大量に集めていたのです。

ケプラーはこのデータをじっくりと眺め、惑星たちの動きを説明しようとしたとき、太陽が真ん中にあるとその周りを惑星たちが回っていると考えたほうがうまく説明できることに気づいたのです。

さらにケプラーのcスバラしいところは、惑星たちがきれいな円(正円)ではなく、楕円で回っていることに気づいたことです。楕円であれば、②ティコが集めた惑星の動きのデータを完璧に説明できることがわかったのです。

こうして③ケプラーの大発見により、地動説に対する観測的な証拠が出されました。地動説を信じるにはもうこれで十分だという気もするのですが、④当時は私たち人類が世界の中心にいないということを主張するのはやはりタブーだったようで、地動説はそれでもなお完全に受け入れられることはありませんでした。なぜ地球は太陽の周りを回っていなければならないのか、その理由がわからないために、⑤最後の決め手を欠いていたのです。

こうした論争に終止符をうち、地動説が正しいということを決定的に示したのが、アイザック・ニュートンです。ニュートンは「万有引力の法則」を発見したことで有名です。リンゴが木から落ちるのを見て、重力の法則を発見したといわれています。

万有引力の法則は、すべての物はすべて互いに引き合うということをeいいます。つまり、リンゴは地球に引っ張られて落ちますし、天体d同士も互いに重力で引っ張り合っているわけです。《中略》

ケプラーは、観測データを分析することで、太陽を中心とその周りを惑星が回っている状況証拠をつかみました。一方ニュートンは、万有引力というこの世界のeキホン法則にf、惑星の動きを数学的に証明したのです。これにより、観測的にも理論的にも地動説が正しいということがはっきりしました。

人類はついに「A」という考え方を捨てることになりました。世界の中心は太陽で、その周りを惑星が回っている。しかも地球は、太陽の周りに8個もある惑星のうちのひとつにすぎない。

これは天文学の歴史のなかで、非常に重要な出来事でした。人類がはじめて、自分たちの存在

を「相対化（そのものの見方や考え方が唯一絶対のものでないと考えること）」したのです。人類は天文学を通じて、自分たちが「絶対的」な存在でないということにはじめて気づき、世界観の大転換が行われることになったわけです。

（佐々木貴教著『地球以外に生命を宿す天体はあるのだろうか？』）

問一 〓 a s e のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 ①「この説」について

(1)「この説」とはどのような説ですか。解答欄に合うように、――①より後ろの本文中から一五字以内でぬき出しなさい。

(2)「この説」の前に信じられていたのは何という説ですか。本文中から五字以内でぬき出しなさい。

問三 ㊦ ㊧ に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア のつとつて イ 示して ウ ちなんぞ

問四 ㊦ ㊧ に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 天動説 イ 地動説

問五 ②とありますが、どのようにして集めたのですか。解答欄に合うように本文中の言葉を使って二〇字前後で答えなさい。

問六 ③とありますが、ケプラーは何に気づいたのですか。二つ答えなさい。

問七 ④とありますが、その理由が書かれている部分を本文中から三五字程度で探し、解答欄に合うように、初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問八 ⑤とありますが、「最後の決め手」となったのは何ですか。本文中から一〇字以内でぬき出しなさい。

問九 ㊦ に入る文として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 太陽が自分たちの中心である
- イ 自分たちが世界の中心である
- ウ 世界が自分たちの中心である
- エ 惑星たちが世界の中心である
- オ 太陽がこの世界の中心である

問十 本文の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球が楕円をえがいて回っているという地動説は、ケプラーによって理論的に、ニュートンによって観測的に証明された。

イ 太陽の周りにある8個の惑星だけでなく、地球も太陽を中心として太陽の周りを回っていることまでが明らかにされた。

ウ かつては世界の中心は人類とされていたが、太陽が中心となったことで「万有引力の法則」が発見されることとなった。

エ 人類が唯一絶対の存在ではないということはなかなか受け入れられず、コペルニクスによって世の中に受け入れられた。

オ 人類が自分たちの存在を唯一絶対とせず、相対的にとらえることができるようになったのは天文学がきっかけである。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくは、イタリアの音楽院でフルートを習っている小学校五年生だ。フルートを続けるかどうか悩んでいたぼくは、ある日、同級生から夏のレッスン合宿のチケットをゆずりうけた。その合宿に参加してみると、そこは高校生から大学院生までのレベルの高い生徒が集まるマスタークラスだった。

演奏を終えると、会場から、大きな拍手が起きた。いつのまにかお客さんが増えていた。そして舞台の袖では、七人の仲間が、a ハデに拍手をしてくれていた。ピューピュー b クチブエも吹いて「ブラーヴォ！」を連発し、盛り上げてくれていたのだ。

頭を下げた舞台の袖に引っこむと、仲間たちにもみくちやにされ、① マエストロがドスン、とぼくの背中を叩いた。

「ユージ！ リハーサルより数倍よかったぞ。本番に強いな。世の中には逆の人も多いんだよ。きみは舞台じゃぜんぜんシャイじゃないね。コンサートに向いているよ。臆せず、じつに豊かに表現していたぞ。このまま、どんどんフルートを続けなさい」

「はいっ！」

② 長いことくすぶっていた炭に、やつと火がついたような気分だった。涙がへ A ン そうになつていた。 X、という言葉をもらえたからなのか、自分がフルートを続けたいと強く思ったからなのかはわからない。 ー、吹く喜びを感じていた。

仲間たちにも励まされた。たった二日間を共に過ごしただけで一体感が生まれたのは、マエストロのきびしくも温かい人柄のおかげと、アンサンブルでいっしょにやる喜びを味わえたからだろう。

みんなは口々に、マエストロ・ビーニのもとでずっと習いたかったといった。でもマエストロはオーケストラの仕事で忙しいから、音楽院では教えていない。 ③ ニ、年に二回ほどやる

短期のマスタークラスは、ほんの一、二時間で定員に達してしまうのだ。たまたま入れた ④ ぼくはずごくラッキーだったんだよと、みんなにいわれた。そして「来年はオレたちといっしょに最初から申し込めよ」とも。

もちろんぼくはみんなに約束した。この二日間のマスタークラスで、目が覚めた。やっぱり音楽は楽しい！ 来年は最初の数秒以内に申し込もう。

九時近くなると、会場にどんどん人が入ってきて、フルート・アンサンブルが始まる九時半過ぎには、c マンセキどころか立ち見まで出ていた。袖から観客席を見ると、アドレナリンが体の中を駆けめぐった。

フルート・アンサンブルが始まると、マエストロは客席に向かってUの字に並んですわっているメンバーのひとりになり、吹きながら目と全身で指揮をした。

リハーサルでは今ひとつまとまりが悪かったのに、八人プラス指揮者の九人が一体となって、ひとつの音楽を作りはじめた。八本のフルートと一本のピッコロが、おのおのの音をしっかりと主張しつつもたがいの音を尊重しあう。マエストロは、⑤ 三 自分だけがスターとして君臨するわけではなく、自分だけソロパートが多いわけでもなく、まわりに見事に調和する。

⑥ マ オーケストラで長年やっている人だ。演奏しながら、④ ゾクゾクしてきた。それはみんなも同じだったみたいで、一曲目と二曲目のあいだにふと見ると、みんなの顔は喜びに満ちあふれていた。

マエストロの思惑どおり、ハデなエンタメ要素もたくさん入ったアレンジだったからかもしれない。⑤ 観客席は総立ちとなり、アンコールを求める声や拍手の嵐で盛り上がった。

それぞれのフルーティストの高いテクニクに支えられた表現力と、マエストロの最高の指揮で、たった二日間で仕上げたフルート・アンサンブルは、信じられないコンサートをやつてくれた。二度のアンコールのあと、客は頬を赤らめたまま、d 名残り惜しそうに帰っていった。

フルートをやっていてよかった！ ぼくはそう実感した。これが音楽のすごさなんだ。演奏者と聴衆が、同じ時間に、同じ空間で、同じ空気を吸って、音楽の喜びをシェアする。

ついこのあいだ、ジャズやほかのジャンルをやってみようかと逃げ腰になつていたぼくは、今、またクラシック音楽の魅力にへ B ている。

そもそも、⑥ こっちがダメだからあっちみたいないない甘い考えは、どのジャンルでも通用しないに決まってる。ジャズもすてきだけど、今はクラシックフルートを e シュウトクしたい。

なにを吹きたいのか。どう伝えたいのか。自分が表現したいことを思う存分実現できるテクニクを持つてからじゃないと、話にならない。

まだ、あきらめの境地にへ C ほど努力していないじゃないか。

音楽。音を楽しみ、客も楽しませる。

⑦ ぼくがフルートをだれのために、なんのために吹くのか、今やっとわかったような気がした。

(佐藤まどか著『アドリブ』)

注 *舞台の袖……舞台の左右の端にある客席からは見えない場所。

*マエストロ……巨匠。大音楽家。ここではフルートの世界での有名な先生を指す。

*臆せず……臆病にならずに。

*アンサンブル……二人以上でいっしょに演奏すること。

問一 —— a s e のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 —— ①とありますが、マエストロの気持ちを表した言葉として適当なものを次から三つ選び、記号で答えなさい。

ア ねぎらい イ いらだち ウ からかい エ はげまし オ いきどおり
カ うらやみ キ みくだし ク ほめたたえ

問三 へ A へー C へに入る言葉として最もふさわしいものを次から選び、必要に応じて形を変えて答えなさい。同じ言葉を二度選ぶことはできません。

とりつかれる あこがれる したたる 達する こみあげる 接する

問四 —— ②とは、どのような心の状態を表したのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア もうどうしようもないとすっかりあきらめていたことを、またできるようになった。
イ もう自分にはできないと思っていたことを、まだまだやれると思えるようになった。
ウ できそうにないとあきらめかけていたことを、またやりたいと思えるようになった。
エ できそうできないといらいらしていたことを、意外にもあっさり終えてしまった。
オ やらなくてはいけないと思いつつながら放つておいたことを、やり始めることができた。

問五 X に入る言葉を本文中からぬき出し、一〇字以内で答えなさい。

問六 I II に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。同じ記号を二度選ぶことはできません。

ア さすがに イ だからこそ ウ たった エ ただ オ けっして

問七 —— ③というみんなの言葉から、マエストロ・ビーニはどのような先生だということわかりますか。本文中の表現を用いて、四〇字以内で説明しなさい。

問八 —— ④とありますが、その心情の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア みんなが一体感を感じているときに、まちがえてはいけなく、緊張する気持ち
イ 会場の人が増えてきたことをはだで感じ、うれしい反面、動揺してしまう気持ち
ウ マエストロ・ビーニの指揮のもと演奏できる喜びに、うちふるえている気持ち
エ いっしょに演奏する仲間が、まだ初心者のおくをも尊重してくれていると喜ぶ気持ち
オ 演奏者九人が一体化する演奏に今までにない感動を覚え、うれしく思う気持ち

問九 —— ⑤とありますが、そうされたのはどんなコンサートだったからですか。本文中から一文でぬき出し、解答欄に合うように、初めと終わりの五字を答えなさい。

問十 —— ⑥とありますが、ぼくはどうしてこう思えるようになったのですか。本文中の言葉を用いて、具体的に説明しなさい。

問十一 —— ⑦とありますが、ぼくはフルートを、だれのために、なんのために吹きたいと思っただけですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が音楽を楽しむことよりもまずは観客のことを考え、観客にこそ一体感を感じてもらえる音楽を仲間といっしょに作り出すため。

イ 高いテクニックを持った仲間といっしょに演奏するために、自分も高いテクニックを持ち、まわりに少しも負けない演奏をするため。

ウ 自分の演奏テクニックを高めることでマエストロ・ビーニに認めてもらい、次のマスタークラスでも一体感ある音楽を作るため。

エ 自分が楽しめる音楽を演奏するだけでなく、共に演奏する仲間や観客までもがいっしょに楽しむことのできる音楽を作り出すため。

オ 自分だけスターとして君臨するのではなく、あくまで共に演奏する仲間を尊重し、自分よりも仲間のために音楽を演奏するため。

問十二 —— 「七人の仲間」が指すものとして、適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア ユージ イ マエストロ ウ フルート・アンサンブルのメンバー
エ イタリアの音楽院の同級生 オ 幼なじみの親友
カ 短期のマスタークラスの参加者

